

は、④ 障害、失見当識、⑤ の3つである。

3) ⑥ は、家族間の葛藤を背景として、主に思春期の女性に起こる病気であり、拒食と⑦ を典型的な食行動パターンとするアディクションである。

13. 精神科薬物療法について、下線①～⑭に当てはまる語を入れて下さい（同じ番号は同じ語です）。

- 1) 抗精神病薬は、主に統合失調症の治療に使われるが、① 性疾患にも効果を発揮する。よく使われる抗精神病薬としては、② に代表されるフェノチアジン系薬物と③ に代表されるブチロフェノン系薬物がある。
- 2) 抗うつ薬としては、④ 系のイミプラミン、アミトプチリン、非④ 系のマプロチン、ミアンセリン等がよく用いられる。抗躁薬の⑤ を予薬する場合は、血中濃度の定期的な検査を必要とする。
- 3) 抗不安薬として最も多く用いられる⑥ 系薬物のジアゼパムは、不安、緊張、焦燥などの症状によく効くため、⑦ 症以外にも、身体疾患を含む様々な疾患に処方されている。
- 4) フェノチアジン系薬物によって生じやすい副作用である⑧ 症状としては、便秘、鼻閉、口渇、起立性低血圧、視覚調節障害、頻脈・徐脈、発汗等がある。
- 5) ⑨ は、ブチロフェノン系薬物によって生じやすい⑩ 症状で、下肢がむずむずして、じっとしていられなくなるが、⑪ 薬の投与で消失する。
- 6) 睡眠薬（睡眠導入剤）としては、主に⑫ 系と、バルビタール系の薬物が用いられるが、後者は⑬ が強いため、急に服薬を中断すると⑭ が出る場合がある。
- 7) 抗精神病薬によるもっとも重篤な副作用である⑮ 症候群は、⑯ 症状と⑰ 症状の合併による極度の筋強剛と高熱、意識障害を呈して生命の危険を伴うが、精神科治療薬を即時中止して点滴と全身の冷電法を施すことによって危険を回避することができる。

14. 身体疾患患者の精神症状について、誤っているものを2つ選んで下さい。

- 1) 術後せん妄が生じている患者でも記憶力は保たれている。
- 2) 全身性エリテマトーデスでは、しばしばうつ状態が見られる。
- 3) 甲状腺機能亢進症では、うつ状態になることが多い。
- 4) 長期にわたる慢性の身体疾患患者は、失感情症（アレキシシミア）になることがよくある。
- 5) リエゾン看護の対象となる患者の精神症状で最も多いのはせん妄、それに次いでうつ状態である。

--	--

15. コンサルテーション・リエゾン精神医学の臨床活動で、正しいものを1つ選んで下さい。

- 1) 全人的、総合的医療が求められる一方で、現代の医療は高度化、専門化の時代でもあるため、全人的、総合的な医療はリエゾン医療スタッフの専門性に委ねられている。
- 2) 若くして頸髄損傷を負った女性がICUから整形外科病棟に転棟してきた。予後について話し合う頃合を見計らううち、精神的に不安定になり暴言を吐くなど手に負えなくなったので、リエゾン医療スタッフに援助を求めた。
- 3) リエゾン医療スタッフが、一般病棟を定期的に回診したり、カンファレンスに積極的に参加したりするなど、医療チームの一員として活動している。
- 4) 患者が精神科に対し偏見を持っており精神科医の診察を拒んだので、速やかに受診させるため、精神科医であることを伏せて受診させた。

--	--